

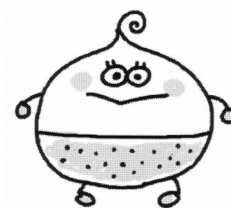
HDM推進会（第 50回）／ごみゼロネット推進会（第 72回）議事録

開催日： 2014 年(H26 年) 5 月 14 日(水) 10:00 ～ 11:50

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、杉本、川村、林、桐生（作成）

議 題：



1. 資料「ごみゼロネットの活動を振り返って」による問題提起（桐生）

以下は2014/5/14 付け標記資料の内容の要約である。

2008/8 ～ 2009/12 最善のごみ処理方法を探して（詳細資料は省略）

2010/1 ～ 2014/4 HDM処理推進の可能性を行政との協働に求めた時期

●2010/3/16の HDMシステム実証試験の陳情は小金井市議会の全会一致で採択された。

●市役所ごみ対策課との「HDM導入検討会議」は行政の引き伸ばし作戦に負け、解散。

2011/4 ～ 2011/11 我々が最も希望に満ちた時期

HDM支持を鮮明に打ち出した佐藤和夫氏が新市長の座に在った時期

2014/4 ～ 漂流する生ごみ処理推進活動

●橋詰氏が主催する「生ごみ処理小金井市民協議会」はごみ対策課から「小金井市は生ごみの分別収集はやらない」と宣言され、先へ進めなくなり、当会同様の漂流状態となった。

●当会でも、①加藤氏は「日野市の市民団体との緊密な連携のもとに、日野市から小金井市に向かって、持ち込むごみ総量を低減するために分別収集とHDM処理をして欲しい」といわせようとしている。

②桐生は「稲葉市長がその職にある限り、我々の意図を実現することは不可能だから、次の市長選挙で我々の活動を実現する意思をもった新しい市長候補に協力するのが最も確実な策である」と考えている。当会はどの道に行くべきか、討議をしたい。

2. 全員討議（細部は省略。主な意見は次の通り）

(1) 三市共同処理を崩さないために、長期間に亘って小金井市会議員全員がごみ問題では貝になっていた。三市共同処理は既に正式合意され、箝口令は解除されたのではないか。「ごみを減らすこと」は錦の御旗で誰も反対できない筈だから、議員各位に働きかけて、小平市や国分寺市のように「生ごみの分別収集」の実施を強力推進してもらえないか。そのような働きかけを当会はすべきでないか。（第3の道）

(2) 市長選挙まで1.5年ある。それまでの期間は加藤氏の進める三市市民協議会に働きかけて、外圧によりごみ対策課の頑なな「分別収集はしない」方針を突き崩す努力をしたい。（「1.5年しかない」の声あり）

(3) ごみ対策課が「生ごみの分別収集はしない」と主張するのは、「プラごみや資源ごみ等で全国的でも先進的な分別収集を小金井市は既にやっている」との自負があって「ここまでやれば充分」と考えてのことではないか。

討議に長時間かけたが、価値ある意見はほぼ上に集約される。

3. 熊谷清掃社の20トHDM施設見学会の設定

川村氏より、「加藤氏より見学会を受け入れることができるといわれている」との伝言あったと紹介、6月中旬頃を目安に、受け入れ側やごみ対策課の都合も調整して、見学会を設定したいと提案。調整は川村氏に一任された。

以上